



<2023年度 入学式 小田 恵 学校長 式辞(一部抜粋)> 4月8日

### ○中学入学式

72期生の皆さん、洛星中学校へのご入学、おめでとうございます。

ヴィアートル学園のミッションは、カトリック精神に基づく教育を実施すること、全ての人間を「神に愛された存在」として尊重し、愛を以て接することができる心と力が備わった人を育てることです。生徒一人ひとりが「神に愛され、神からかけがえのないタレントを授かった存在」であり、「世の光」として輝いていく存在だということを学校生活での様々な経験を通して伝えることが、カトリックの学校としての基本的な使命です。

「愛」ということばは、漠然として分かりづらいかも知れません。イエス・キリストは「あなたの隣人を愛しなさい」とおっしゃいました。「愛する」とは決して恋愛感情ではなく「大事に思う」ことです。たとえ「敵」であっても相手の尊厳を大事にし、思いやる。そういう心です。

まずは「人の痛みに気づくこころ」を持ってください。「人の痛みに気づく」ということは、身近な人だけでなく、相手のことを大切に思うということです。

「神に愛された存在」である人間は、神の思いに反するような行いもしてきました。現在の世界状況を鑑みても、人間同士争いあう中でかけがえのない命を落としています。また人間中心の勝手な思いから自然環境への配慮も足りずに環境破壊をしてきました。皆さんには、この世界で起こっている様々な出来事、なぜそのようなことが起きるのかを考え学んで、人間という存在について深く理解をしてほしいと思います。世界の種々多様な問題を解決するため、苦しむ人々のために、自分の大切な人をまもるために、自分に何ができるかを問い続け考え続けてください。そして「学ぶ楽しさ」を知る人になってください。

それには、まず「学ぶ」姿勢をしっかり身につけることが必要です。日々の授業を大切にし、自学習の習慣をきっちり身につけて初めて積極的な学びに姿勢が生まれてきます。この「学び」は容易なことではないかもしれません。一生かけても学びきれないものもあるでしょう。でも、その学びが、大切な人を守ることにつながるのならば、「学ぶ楽しさ」「探究する楽しさ」は「神からの愛」となることでしょう。

72期生のみなさん、これから6年間、先輩、先生とのかかわり、自分を大切に思ってくれる人たちとのつながりを大事にしてください。また、授業やクラブ活動、講演会など様々な学びの中で、大切な人のため自分に何ができるか、なにをすべきかを考えてください。みなさんが、自分に与えられているタレント、才能や善いところを知って、そのタレントを磨き、輝いてくれることをと願っております。

### ○高校入学式

69期生のみなさん、洛星高校への入学、おめでとうございます。

高校に入ると、これまで以上に主体的な学びというものが求められます。しかし、「何のために学ぶのか」が分からないままでは、前に進めないかもしれません。「学び」というとまずは、「大学進学」を考える人が殆どでしょう。3年後、あるいはもっと先の大学卒業後の進路について既にはっきりと定めている人もいるでしょうが、将来についてはまだまだ漠然としたイメージしかない人が殆どではないでしょうか。

今、世界で起こっている様々な出来事や、そうしたことを引き起こすこの世界の仕組みや、人間の尊厳や弱い側面を含めたその性質について深く理解をしてほしいと思います。世界に存在

する多様な課題を解決するため、苦しむ人々のため、自分の大切な人を守るために、自分に何ができるかを問い続け考え続けてください。

昨日、皆さんの先輩で 現在東チモールの大使として現地で働いていらっしゃる方から、現地の様子を伝えていただきました。恵まれた環境で学ぶ洛星の皆さんには想像もつかないような信じられない環境の中で学んでいるわけですが、子どもたちには、日本にない明るさがある、ということです。

よく、真の飢えや貧しさは、所謂後進国にあるのではなく、日本のような先進国にあるのではないか、という問いかけがなされますが、皆さんは、この問いかけにどのように答えますか？ 周りをとりまく世界と直接的にかかわることなく、疑問も感謝もなく水道や電気を使う私たちは、物質的には豊かあっても、心は貧しく、飢えているのかもしれませんが。

高校に入り、もちろん、教科学習にもこれまで以上にしっかり取り組んでいかねばなりません。同時に、例えば、東チモールの人々や、ブルキナファソの人々とオンラインなどで交流するなど、世界の中の洛星生として学ぶ機会も大切にしたい、と考えています。こうした学びが社会をより善く変えたいという思いにつながってゆけば、学ぶ意味や、自分が生きている意味、そして使命に気づくことにもなるでしょう。そして目の前の大学受験だけでなく、広く将来を考えられると思います。

皆さんは桜の花とは違って、花を咲かせる時はそれぞれ違います。神から愛された存在である皆さんは、一人ひとり豊かな「タレント」を授かっています。このタレント、能力は無限の可能性をもっていると私は信じています。それぞれの「時で」輝き、そして輝きを増しつつ「世の光」として、ずっと成長していってくれることを願って、私のことばといたします。

## <2023年度 始業式 小田 恵 学校長 式辞(一部抜粋)> 4月10日

入学(進学)・進級おめでとうございます。

久しぶりに6学年そろってこの日を迎えられることに感謝しましょう。

昨日は、キリストのご復活を祝うミサが全世界のカトリック教会でおこなわれました。

死の壁を打ち破り、復活し、新しい永遠の命を得られたキリストを賛美し、私たち人間も不信仰のからを打ち破り、新しい命を得て、新しい生活が送れますように、という祈りを込めて教会ではイースターエッグを飾りつけたり、配ったりします。

皆さんも今日から、これまでの殻を破って、新しくなって、日々の学びや活動を通して成長していってくれることと期待いたします。

72年目を迎える洛星が大切にしているミッションは、「こころ、あたま、からだ」のバランスのとれた青年を育成し、世の中を導く星として、輝く存在として社会に送り出すことです。輝く星となるために、皆さんには「人の痛みに気づく心」と「学ぶ楽しさを知る」ことを大事にして貰いたいと思っています。これはキリストの「互いに愛し合いなさい」という教えにつながる大切なことです。

洛星はヴィアートル修道会によって創立されました。この会の創始者であるケルブ神父が遺した教えの一つが生徒手帳14ページに記されている生徒心得として記されている5つの総則です。「静粛」「時間厳守」「礼儀」「美化整頓」「公共心」はケルブ神父が遺した教えです。といっても、特別なことを挙げているのではなく、他人を思いやる気持につながっているもので、社会の中で生きていくにあたって必要な基本的なことばかりです。

この5つの総則のうち、今年度は特に「礼儀」にフォーカスしたいと思います。

「礼儀」は他者の存在を認め、敬う姿勢のことで、人間関係の基本というべきもので、キリストの教えである「隣人愛」に直結するものです。「礼儀」というと、堅苦しく聞こえるかもしれませんが、

具体的な一歩として、挨拶をきちんとしてもらいたい。必要な時にきちんと挨拶をするということは、相手の存在を認め、敬うという行為です。先生でも、友達でも、誰かが話している時にはきちんと耳を傾ける、何か尋ねられたときにははっきり自分のことばで答える。これも相手を尊重し、「愛する」姿勢につながります。挨拶には様々な形態があるでしょうが、視線を交わし会釈を交わすだけでもコミュニケーションのはじまりとなり、人との結びつきを築く第一歩となります。人とかかわる、結びつく、ということは、将来「輝く星」として社会を担う、洛星の生徒には欠かせないことです。

聖書に「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」とあるように、挨拶という小さなことも大きな愛につながる、ということを中心に留めてください。

さて、このあと「アガペー」という儀式が行われます。キリストのご受難からご復活までを聖書のことばを通して知り、祈るものです。そして、皆さんが神からの愛を感じ、豊かに成長していってくれるよう、学園一体となって祈る機会でもあります。

まもなく、コロナ感染症の扱いも変わり、社会の活動もコロナ禍以前の状態に戻ってきます。学校の中での学習、課外活動はもちろん、学校の外での活動にも積極的に参加し、みなさん一人ひとりが神から受けた「タレント(能力)」に気づき、伸ばしてください。皆さんの活動や学びを共有するための報告・発表の場も設けたいと考えています。

これから始まる 2023 年が、皆さんにとって、すばらしい「こころ、あたま、からだ」の成長の時であるように、祈っています。